

歯科矯正患者における身体醜形障害の有病率に関する検討

著者	松岡 紘史, 山崎 敦永
雑誌名	北海道医療大学歯学雑誌
巻	29
号	2
ページ	205-205
発行年	2010-12
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00006475/

[最近のトピックス]

歯科矯正患者における身体醜形障害の有病率に関する検討

松岡 紘史¹・山崎 敦永²

¹北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系口腔衛生分野

²北海道医療大学個性差医療科学センター

目的

身体醜形障害は、自らの外見上の欠陥に対するとらわれが非常に強く、そうした欠陥を修正するために外科的治療をはじめとしたさまざまな治療を受ける疾患である。歯科領域で身体醜形障害患者が多く受診する矯正歯科では、英国での有病率調査が実施され、矯正歯科患者の7.5%に身体醜形障害が認められている。本研究では、本邦の矯正歯科患者における身体醜形障害の有病率を明らかにすることを目的として調査研究を行った。

方法

私立大学矯正歯科外来を受診し、本研究の主旨および方法、プライバシーの保護について説明し同意の得た患者51名（男性18名、女性33名、26.91±9.55歳）を対象に調査研究を行った。調査材料は、DSM-IV-TR（アメリカ精神医学会の精神疾患に関する診断基準）の身体醜形障害の診断基準に基づく質問項目（表1）であり、初診時の状態に関して懐古的に調査を行った。

結果

対象者のうちDSM-IV-TRの基準Aに関する質問項目（1）および（2）を満たす者は21.57%（n=11）であ

った。また、基準Aを満たした対象者のうち、基準Bに関する質問項目（3）もしくは（4）を満たした対象者は、全体の対象者の13.73%であった。基準Aおよび基準Bを満たした対象者のうち、質問項目（5）にあてはまった1名を除外した11.76%（n=6）が最終的に身体醜形障害の診断基準を満たす可能性が示された（表1）。

考察

本研究の結果、11.76%の矯正歯科患者が身体醜形障害の診断基準を満たす可能性が明らかにされた。英国での有病率は7.5%であるため、本邦の矯正歯科患者の身体醜形障害の有病率は英国と同等もしくはそれ以上であることが確認されたといえる。

参考文献

松岡紘史, 山崎敦永, 前崎有美, 齊藤正人, 溝口 到, 安彦善裕, 坂野雄二. 歯科矯正患者における身体醜形障害の有病率に関する検討. Orthodontic Waves-Japanese Edition, in press.

表1 DSM-IV-TRの診断基準に基づく質問項目にあてはまった対象者数と割合

質問項目	n	%
診断基準A「外見についての想像上の欠陥へのとらわれ、小さい身体的異常が存在する場合、その人の心配は著しく過剰である。」の質問項目		
(1) 外見上の身体的欠点に関して、強いとらわれがありますか？	29	56.86
(2) その外見上の身体的欠点は、他の人から賛同してもらえなかったり、過剰であると言われてしまうものですか？	12	23.53
診断基準B「そのとらわれは、臨床的に著しい苦痛、または社会的、職業的、またはその他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。」の質問項目		
(3) その外見上の身体的欠点によって、あなたは強い苦痛を感じていますか？	13	25.49
(4) その外見上の身体的欠点の原因で、毎日の生活（例えば、仕事や対人関係）が障害されていますか？	6	11.76
診断基準C「そのとらわれは、他の精神疾患ではうまく説明されない（例：神経性無食欲症の体型およびサイズへの不満）」の質問項目		
(5) 外見を心配する主な原因は、あなたの体重に関することですか？	4	7.84
基準A：（1）および（2）がYES	11	21.57
基準A+基準B：（1）および（2）がYES、かつ、（3）もしくは（4）がYES	7	13.73
身体醜形障害：基準Aおよび基準Bに当てはまり、（5）がNO	6	11.76